

## 第36回 安全設計指針検討会 議事録

1. 日 時 2021年7月5日(月) 9:30~11:00

2. 場 所 WEB会議 (ホスト: 日本電気協会 D会議室)

3. 出席者 (敬称略, 順不同)

出席委員: 板東主査(東京電力HD), 山本副主査(北海道電力), 泉(中部電力), 森本(北陸電力), 木村(関西電力)(途中退席), 神崎(中国電力), 西紋(四国電力), 二神(JAEA), 鎌田(JANSI), 荻野(三菱重工), 織田(日立GE), 田澤(富士電機)

代理委員: 益田(東北電力・田中委員代理), 佐野(九州・山崎委員代理)(途中出席), 今野(日本原子力発電・瀧川委員代理), 小野(電源開発・大口委員代理), 及川(東芝ESS・佐藤委員代理)

説明者: 石谷(北海道電力), 井上(中部電力), 畠, 荒木(北陸電力), 南, 吉岡, 佐藤, 舛岡(中国電力), 二宮, 福永(九州電力), 笠川, 磯崎, 藤井(日本原子力発電), 伊藤(日立GE), 佐藤(三菱重工), 河村, 村上(東芝ESS)

事務局: 末光(日本電気協会)

### 4. 配布資料

資料 No.36-1 安全設計指針検討会 委員名簿(2021-7-5)

資料 No.36-2 第35回 安全設計指針検討会 議事録(案)

資料 No.36-3-1 JEAG4612「安全機能, 重大事故等に対処する機能を有する電気・機械装置の重要度分類指針」改定案に関する公衆審査における意見対応に関する書面審議の結果について [安全設計指針検討会分]

資料 No.36-3-2 安全機能, 重大事故等に対処する機能を有する電気・機械装置の重要度分類指針(JEAG4612-2021) 改定案に関する公衆審査における意見に対する回答 [原子力規格委員会]

資料 No.36-4-1 「中央制御室の居住性に係る有毒性ガス影響評価に関する指針(仮題)」策定に向けた技術要件等の調査、検討

資料 No.36-4-2 「中央制御室の居住性に係る有毒性ガス影響評価に関する指針(仮題)」骨子案

資料 No.36-4-3 添付資料 有毒ガス防護に係る影響評価ガイドと R.G.1.78 等との要件比較

### 5. 議事

#### (1) コンプライアンスについて

事務局より, 近年の我が国の独占禁止法のより一層の遵守, 欧米等の競争法の執行強化の傾向を踏まえ, 電気協会においても競争法に関するコンプライアンスの取り組みを進めているため, 本検討会においても競争法上問題となる虞のある話題については, 話し合わないよう協力をお願いがあった。

(2) 定足数の確認、代理出席者の承認について

事務局より、代理出席者5名の紹介があり、主査により承認された。委員総数17名に対して、代理出席を含めて17名の出席予定であるが、1名は遅れて参加のため開始時点で16名であり、委員総数の3分の2(11名)以上の出席という会議開催定足数を満たしているとの報告があった。

また、事務局より、本日の説明者17名の紹介があった。

(3) 委員の交代について

事務局より、資料 No.36-1 に基づき委員の交代について説明があった。委員の交代については、安全設計分科会書面審議(7月下旬)にて承認予定である旨の説明があった。

(4) 前回議事録の確認

事務局より、資料 36-2 に基づき、前回議事録の内容説明があった。出席者の記載の一部について、代理出席者と説明者の記載が逆転しているとの指摘があり、当該箇所の修正を条件として承認された。

(5) JEAG4612「安全機能、重大事故等に対処する機能を有する電気・機械装置の重要度分類指針」改定案に関する公衆審査における意見対応に関する書面審議の結果報告

資料 36-3-1 に基づき、主査から JEAG4612 の改定に関する検討会の書面審議結果について報告があり、委員総数17名に対して投票総数15票であり、全て賛成票であったことから、書面審議が終了している旨の説明がなされた。

また、資料 36-3-2 に基づき、事務局から分科会および規格委員会での審議結果について報告がなされた。分科会では、改定案は可決されたものの1件の反対票があり、これは表現の見直しについて提案されたものであったことから、当初案から見直しを行ったうえで、6月29日の規格委員会に上程し、回答案が決議されているとの説明がなされた。

(6) 中央制御室の有毒ガス防護に係る新規格策定の方向性について

及川氏より、36-4-1~3 に基づき、中央制御室の有毒ガス防護に係る新規格策定の方向性について説明がなされた。

主な質疑は以下のとおり。

- ✓ 骨子案については提案の形で進めるのが良い。最終的に規格を制定するにあたっては、国内外の最新知見等とその反映状況を標準様式に記載する必要があり、その中では、例えば IAEA やフィンランド、英国およびドイツ等での規格上の記載・位置づけについて整理し、その結果として米国の **Regulatory Guide** を対象として作業を進めていくこととした、というような前段の話がもう少しあればよいと思う。

→米国だけでなく、より全体を見渡して参考になる情報を確認して整理していきたい。具体的な情報としては米国が最も充実していると考えているが、その他についても整理していきたい。

質疑の後、新規格策定の方向性について採決が行われ、挙手および音声による確認の結果、本議案は承認された。

(7) その他

次回開催時期は、今後の幹事会における新規格の検討状況等を踏まえて設定することとし、別途調整することとした。

主査より、2021・2022年度の本検討会における新規規格策定要否の確認があり、予定通り中央制御室の有毒ガス防護に係る新規格策定及び JEAC4622 改定に取り組むこととし、追加はないことを確認した。

以 上